



一隅を照らそう  
11月号

286号  
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

### 悠久の法脈

住職 中島 有淳

紀元前約五〇〇年前に、お釈迦さまが説かれた沢山のお経の中でも真髓は『妙法蓮華経』である。と、撰述し体系づけられたのは、中国の小釈迦と称された天台大師智顛（五三八〜五七九）であります。

釈尊が亡くなって時代が流れ、約千年後に智顛によって、中国の地で法華経を中心とした天台宗が開かれました。そして日本では、聖徳太子が鎮護国家の三部経として法華経を尊信され、さらに最澄（七六六〜八二二）は、遣唐使として当時の中国仏教を学び、法華経を新仏教学の根幹とした日本天台宗を開いたのです。そして、比叡山の地に発展した日本天台仏教は、さらに中国で学び帰国した円仁（七九四〜八六四）によって教学が追補され、「円、密、禪、戒、淨」の分野にくまなく法華経思想が浸透していきました。

そして円仁を慕って入山し、後に浄土教の礎となる『往生要集』を著した横川の恵心僧都源信は、この時代にあつて大變有名なお方でもありますし、また、本年十一月三日、没後千百年の祥当を迎える相応和尚は、回峰行の祖として大きな影響を及ぼしたのは皆さん周知の通りで、法華経行者そのものでした。天台宗ではこうした祖師先徳の鑽仰を平成三十三年迄、特に慶

讃しているところでもあります。

#### 相応和尚和讃

(前略)

(上音) 八十歳に及ぶ頃  
阿彌陀如来六観音  
天下鎮護の為なりと  
般若菩薩を奉造す  
一部を書写し給いて  
晝夜三日に亘りては  
生善薦福其の為に  
一夜に必ず三巻を  
一仏称えて三礼し  
時に延喜十八年  
後生の処を示さるる  
坐せしめ浄土を見せしむる  
霜月二日に至り来て  
西方向きて合掌し  
翌日夜半に及ぶ程  
春秋八十八にして  
和尚の伝えし行法は  
生身不動の御姿を  
不軽菩薩の御心を  
比叡の御山の巡礼と  
千日回峯行法は  
以下三遍「帰命稽首す我が和尚  
忘己利他の本誓は  
(宝号) 南無南山建立大師相応和尚 三遍三下

衆生を引攝せんとして  
造りて奉祀給いける  
五大明王並びに  
更には三千仏名経  
師走の朔日より始め  
一切衆生の滅罪と  
仏名懺悔を修し給う  
唱えて礼拝せし程に  
九千札を数えたり  
本尊不動に祈念せば  
須弥山頂の盤石に  
兜率と極楽浄土なり  
十妙院の坊に入り  
弥陀の名号唱えらる  
右脇し入滅し給えり  
浄土の相を示さるる  
回峯修験と称せらる  
現じて息障加持を修し  
得ては但行礼拝す  
葛川の参籠行  
法脈絶える事は無し  
鎮護国家の宿願と  
何時の世までも伝えかし」下

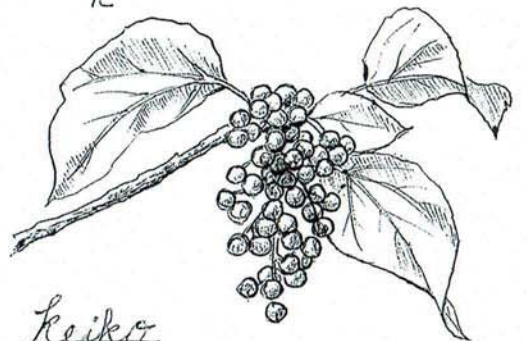


祖師先徳鑽仰大法会

#### 折りふしのはな

いいぎり (飯桐)

先日 近くの公園で  
まっかな実が  
ぶどうの房のようになっている  
大きな木を見かけました  
何の木かしら と見ますと  
「イイギリ」と書いてありました  
秋の空に 赤い実が  
とても鮮やかです



Keiko

来年 どんなお花が咲くのでしょうか  
たのしみです

(遊)

#### 行事案内

- 星祭供修行 十二月二十二日 (冬至)  
来年の運勢が冬至から変わりますので、悪運を  
転じて吉運となりますように祈禱致します。  
申込書をご利用下さい。(締切 十二月八日)
- 七五三詣り (随時)  
\*お守りをお授け致します。
- 月例案内  
◎毎月八日 午後二時  
薬師如来祈禱会 観音経読誦
- ◎毎月十二日 午後二時  
智泉院法要日 (於: 日本橋茅場町)
- ◎毎月十八日 午後二時  
観音経読誦法要 (於: 神木観音堂)
- ◎毎月二十八日 午後二時  
不動明王護摩供修行  
\*毎朝 六時より公開で朝のお勤めをしております  
ご都合のよろしい時には「一緒」にどうぞ

#### あとがき



◎本年も「星祭供」や新年の「開運初護摩供」等のご案内を十一月中旬にはご信徒の皆さまにお届け致します。星祭の申込切は十二月八日。お早めにお申し込み下さい。

◎10/22の衆院選挙は、与党の大勝。野党の分裂トタバタが原因なのでしようが、小池都知事も「希望の党」の大敗は自身の「驕り」にあったと。

◎武蔵野の名刹深大寺 (調布市) に伝来する銅造釈迦如来像 (全高八十三・九cm重さ五十三kg・飛鳥時代) が本年、国宝に指定され賑わっています。東日本最古の国宝指定で約千三百年もの間、守られてきた奇跡にロマンを感じます。

◎『七五三』の祈禱祈願を受付中。お子様の無事成長の願いを、「木札」と「懐中守」に込めて授与致します。ご予約下さい。

◎この間、衣替えをしたと思ったらもう十一月。秋も深まってくる気配が濃厚です。体調を崩しませんようご自愛下さい。